

ビジターセンターの魅力を高める、

地域性豊かな展示づくり

(株)乃村工藝社 文化環境事業本部
プランニングディレクター 亀山裕市

一 はじめに

の
高
い
展
示
事
例
を
題
材
に
、
そ
の
技
術
的
特
徴
を
考
察
・
紹
介
す
る
こ
と
と
し
た
い
。

二 評価の高い展示の特色 は「地域性」と 「場としての魅力」

展
示
の
役
割
の
ひ
と
つ
に
情
報
を
伝
え
る
こ
と
が
あ
げ
ら
れ
る
が
、
ガ
イ
ド
ブ
ック
を
は
じ
め
と
し
た
出
版
物
や
イ
ン
ター
ネ
ッ
ト
上
の
コ
ン
テ
ン
ツ
な
ど
来
訪
者
が
情
報
を
得
る
方
法
が
多
様
に
存
在
す
る
な
か
、
展
示
な
ら
で
は
の
情
報
提
供
と
、
国
立
公
園
利
用
の
一
コ
マ
と
な
る
居
心
地
の
良
い
場
と
し
て
の
空
間
が
評
価
さ
れ
て
い
る
。
典
型
的
な
事
例
に
、
箱
根
ビ
ジ
ター
セ
ン
ター
（富
士
箱
根
伊
豆
国
立
公
園）、
裏
磐
梯
ビ
ジ
ター
セ
ン
ター
（磐
梯
朝
日
国
立
公
園）、
竹
富
島
ゆ
が
ふ
館
（西
表
石
垣
国
立
公
園）、
種
差
海
岸
イ
ン
フ
ォ
メ

多
く
の
人
々
に
国
立
公
園
を
満
喫
し
て
も
ら
い
、
さ
ら
に
は
国
立
公
園
の
保
護
へ
の
関
心
や
理
解
を
深
め
て
も
ら
う
場
と
し
て
、
ビ
ジ
ター
セ
ン
ター
が
全
国
で
運
営
さ
れ
て
い
る
。
ビ
ジ
ター
セ
ン
ター
の
機
能
に
は
、
国
立
公
園
内
の
自
然
環
境
の
案
内
や
解
説
を
は
じ
め
、
調
査
研
究
や
観
光
案
内
な
ど
も
あ
り
、
立
地
す
る
地
域
の
課
題
や
地
理
的
特
性
等
を
反
映
し
て
さ
ま
ざ
ま
な
運
営
が
な
さ
れ
て
い
る
。
こ
う
し
た
ビ
ジ
ター
セ
ン
ター
の
機
能
を
具
体
化
す
る
も
の
に
「展
示」
が
あ
る
が
、
で
き
あ
が
つ
た
展
示
を
体
験
す
る
こ
と
は
で
き
て
も
、
展
示
づ
く
り
の
プ
ロ
セ
ス
が
共
有
さ
れ
る
機
会
は
少
な
い
。
そ
こ
で
こ
こ
で
は
、
ビ
ジ
ター
セ
ン
ター
の
運
営
ス
タ
ッフ
や
一
般
来
訪
者
へ
の
聞
き
と
り
で
評
価

ー
シ
ョ
ン
セ
ン
ター
（三
陸
復
興
国
立
公
園）
な
ど
が
あ
げ
ら
れ
る
。
こ
れ
ら
の
展
示
に
特
徴
的
な
こ
と
は
、
パ
ー
ク
ボ
ラ
ン
テ
ィ
ア
や
地
域
住
民
の
方
々
の



箱根ビジターセンター「フィールドガイドテーブル」



裏磐梯ビジターセンター「四季の蔵」

日
々
の
活
動
や
生
活
に
根
ざ
し
た
個
人
的
な
エ
ピ
ソ
ード
、
経
年
的
に
現
場
を
体
感
し
て
い
る
研
究
者
の
見
解
な
ど
が
と
り
あ
げ
ら
れ
て
い
る
こ
と
で
、「地
域
性」
の
色
濃
い
情
報
で
展
示
構
成
さ
れ
て
い
る
こ
と
が
注
目
さ
れ
る
。
ま
た
、
ビ
ジ
ター
セ
ン
ター
第
一
の
機
能
と
さ
れ
る
案
内
機
能
・
解
説
機
能
に
加
え
て
、
地
域
住
民
と
の
出
会
い
や
対
話
の
場
、
の
ん
び
り
し
な
が
ら
地
域
ゆ
か
り
の
自
然
や
生
活
文
化
に
想
像
を
め
ぐ
ら
す
場
と
し
て
の
評
価
も
高
い
。

三 地域ゆかりの展示を 組み立てる 「取材」の重要性

地
域
性
の
色
濃
い
情
報
に
よ
る
展
示
を
成
立
さ
せ
る
技
術
的
特
徴
に
、
設
計

業
務
以
前
の
「取
材」
が
あ
げ
ら
れ
る
。
具
体
的
に
は
ま
ず
、
対
象
と
な
る
国
立
公
園
の
特
色
を
示
す
文
献
取
材
を
お
こ
な
い
、
さ
ら
に
関
連
す
る
有
識
者
や
地
域
住
民
へ
の
イ
ン
タ
ビ
ュ
ー
取
材
に
業
務
を
ひ
ろ
げ
て
い
く
。
例
え
ば
、
箱
根
ビ
ジ
ター
セ
ン
ター
や
裏
磐
梯
ビ
ジ
ター
セ
ン
ター
で
は
、
長
年
活
動
を
続
け
て
こ
ら
れ
た
運
営
ス
タ
ッフ
や
パ
ー
ク
ボ
ラ
ン
テ
ィ
ア
の
方
々
と
展
示
ク
リ
エ
イ
ター
が
と
も
に
フ
ィ
ー
ルド
ワ
ー
ク
を
お
こ
な
い
、
展
示
で
扱
う
べき
特
徴
的
な
情
報
の
吟
味
・
選
定
と
展
示
手
法
の
検
討
が
す
す
め
ら
れ
た
。
竹
富
島
ゆ
が
ふ
館
と
種
差
海
岸
イ
ン
フ
ォ
メ
ー
シ
ョ
ン
セ
ン
ター
で
は
、
農
業
・
漁
業
に
世
代
を
超
え
て
従
事
し
、
毎
日
の
生
活
の
な
か
で
自
然
と
接
し
て
い
る
地
域
住

民へのインタビュー取材を重ねること、市井の人々の生活感を伴った自然の姿が浮き彫りになり、来訪者が「感情移入」しやすく親近感や興味を抱く展示編成につながっていった。こうした「取材」は、工程的には、四季の移ろいが一巡して地域特性を概観できる一年程度の時間をかけられると効果的だ。

また、取材活動の成功に特に重要となることのひとつが地域連携機関や住民などの関係性だ。地域性の籠った展示や開館後の運営サービスの魅力を生みだすカギとなるのが地域との協働関係であり、ビクターセンターの実質的な責任者となる自然保護官と地域関係

者・運営スタッフ・展示クリエイターが一体になることで、来訪者と地域住民の双方に喜ばれるビクターセンターの展示が生まれていく。

四 取材成果を来訪者の体験につなぐ

「展示デザイン」の要点

地域の魅力あふれる個性的な情報が取材成果として集まったあと、展示表現・手法のデザイン、空間レイアウトなどの展示設計がおこなわれる。運営状況にあわせて情報を更新できるなどの展示の基本機能を設計するとともに、報告書や書籍、映画とは違った三次元的・身体的な体験で興味・関心の扉をひらく「展示デザイン」が期待される。

代表的な事例として竹富島ゆがふ館を考察・紹介したい。

まず、文献取材と研究者への取材が

おこなわれ、さらに島の暮らしの今昔を知る島民と島ゆかりの人々への広範な取材がおこなわれた。ここで明らかにになったことは、恵みと厳しさが相半ばする自然特性を日常生活に巧みに取りこむ知恵の数々であり、先祖伝来の知恵を大切に受け継ぎ助け合って暮らししてきた人々の絆の強さだ。その結果、こうした特色を展示の根幹に据えることがめざされることとなり、島の自然と人々の生活の関わり、さらには人と人のつながりを物語るエピソードを展示情報として抽出・編集し、来訪者の体験につなぐ展示デザインがおこなわれた。具体的な展示に「うつぐみ」がある。うつぐみとは一六世紀に活躍した島の偉人が残したことで、共生や相互扶助の精神を意味するものである。ところが、島の人々への聞き取りを重ね、狭小な耕地面積や土壌条件などの竹富島ならではの厳しい自然特性を知ると、人々のつながりだけを意味したものではないことに気づかされる。そこには、限られた自然資源をとともに活用して暮らしをつなぐ島民相互の自然の恵みへの感謝の心も含まれているのだ。そこで、

いわば竹富島らしい自然と人との関わりを伝えることば・うつぐみの含意を島民ひとり一人が発したことで表し来訪者に体験してもらう展示を中心に位置づけ、さらに島民個々の自然との関わりのエピソードを「祭」「神」「海」「食」などの切り口で伝える展示で構成している。

また、いずれのビクターセンターにも共通する展示技術の具体論として、運営体制を想定した展示の役割整理も重要である。というのも、運営の状態によって、展示の役割は大きく変わるからだ。計画や設計段階から現実的な運営サービスを見据え、運営スタッフによる接客に便利な展示で構成するか、来訪者自身で満足できる展示で構成するなど、運営の現場に沿った展示像を検討したい。

亀山 裕市 ●かめやま ゆういち
株式会社 乃村工藝社 文化環境事業
本部 プランニングディレクター。
日本展示学会理事。
主な業務実績…

本文にて紹介した事例のほか、国立科学博物館〈地球館〉〈日本館〉、金沢二一世紀美術館、いわき市勿来関文学歴史館、岐阜市長良川うかいミュージアム、南大東島まるごと館、などがある。



種差海岸インフォメーションセンター「ことばの渚」



竹富島ゆがふ館「うつぐみ」